

(様式 1)

令和 8 年 4 月 15 日

事業計画書

スポーツ庁次長 殿

団体名 一般社団法人ユニバーサルスポーツしずおか
所在地 静岡市葵区松富四丁目 14-1
静岡市北部体育館 2 階 事務所
代表者の職・氏名 理事長 北川 雅弘

令和 8 年度「パラスポーツ推進プロジェクト（パラスポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業）」について、以下のとおり事業計画書を提出します。

1. 事業の実施期間 委託を受けた日から令和 9 年 2 月 26 日まで

2. 事業趣旨

【静岡市のパラスポーツの目指す姿】

ユニバーサルスポーツしずおかは、静岡市が掲げる「清水区庵原地区ユニバーサルスポーツの聖地化推進プロジェクト」の理念に賛同し、ユニバーサルスポーツの推進を通じた共生社会の実現を目的として活動しています。

本プロジェクトは、障がいの有無や年齢、性別、競技レベルにかかわらず、誰もがスポーツを楽しみ、交流できる環境を地域全体で創出する取組であり、「スポーツ・健康まちづくり 優良自治体表彰（令和 7 年度 スポーツ庁）」において長官特別賞を受賞するなど、全国的にも高い評価を受けています。

清水区庵原地区では、

- ①誰もが安心・安全に利用できるスポーツ施設の整備などのハード面の取組と、
- ②スポーツを「する・みる・ささえる」機会を創出し、参加の裾野を広げるソフト面の取組を両輪として、ユニバーサルスポーツの拠点形成が進められています。

ハード面では、令和 9 年春の供用開始に向けて、市営野球場ちゅ〜るスタジアム清水敷地内に、障がいのある方が優先的に利用できる屋内運動場の整備が進められているほか、清水ナショナルトレーニングセンターにおいても、競技環境のさらなる充実に向けた機能改善の検討が開始され、地区内既存スポーツ施設のバリアフリー化も計画されています。

一方、本事業（令和 8 年度「パラスポーツ推進プロジェクト（パラスポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業）」）において、ユニバーサルスポーツしずおかは、これら行政による施設整備の動きを最大限に活かし、障がいの有無にかかわらず、スポーツを日常の活動として定着させるためのソフト面のモデル創出に重点的に取り組みます。

学校教育、大学・企業・競技団体、市民活動等と連携しながら、誰もが、いつでも、どこでも、スポーツに参加し、継続できる仕組みを構築することで、静岡市発の取組を全国へと波及させる先進モデルの形成を目指します。

令和 8 年 2 月に設立されたユニバーサルスポーツしずおかを中心に、地域に根ざした実践を積み重ね、ユニバーサルスポーツが当たり前存在する社会の実現に貢献していきます。

【今年度事業の概要と狙い】

I：共生社会教育プログラムの実施

概要	次世代を担う子どもたちを対象に、障がいの有無や多様な個性への理解を深める「共生社会教育プログラム」を実施します。	 (イメージ)
狙い	知識として共生社会を学ぶだけでなく、スポーツ体験を通じて「違いを特別視せず、自然に受け入れる感覚」を育みます。将来にわたり共生社会を支える人材の育成につなげるとともに、地域への波及効果を生み出します。	

II：大学や地元アーティストと連携したイベントの開催

概要	美術・福祉系大学や地元アーティストと連携し、ユニバーサルスポーツや共生社会をテーマとした「ポスター・ロゴ・事業アイデア等」の制作コンテストやワークショップ、表彰イベントを開催します。	 (イメージ)
狙い	一方的な情報発信ではなく、企画・制作段階から多くの人を“当事者”として巻き込むことで、共生社会やユニバーサルスポーツへの理解と共感を広げることを狙いとしています。	

III：静岡ユニバーサルスポーツフェスティバルの開催

概要	障がいの有無に関わらず、誰もが気軽に参加できる「静岡ユニバーサルスポーツフェスティバル」を開催します。	 (イメージ)
狙い	多様な市民が同じ場でスポーツを楽しむ体験を通じて、共生社会への理解促進と、ユニバーサルスポーツの裾野拡大を図ります。	

IV：スポーツ教室開催事業

概要	北部体育館トレーニング室のスペースを活用し、ユニバーサルスポーツを主体としたスポーツ教室を定期的に開催します。	 (イメージ)
狙い	イベントでの「一過性の体験」にとどまらず、日常的にスポーツに親しめる環境を整えることを狙いとしています。	

これら4つの取組を通じて、「学ぶ・創る・集う・続ける」という多面的なアプローチから、ユニバーサルスポーツを日常に根づかせ、全国に展開可能な共生社会モデルの創出を目指します。

【静岡市の優位性】ホームタウンチームとの連携

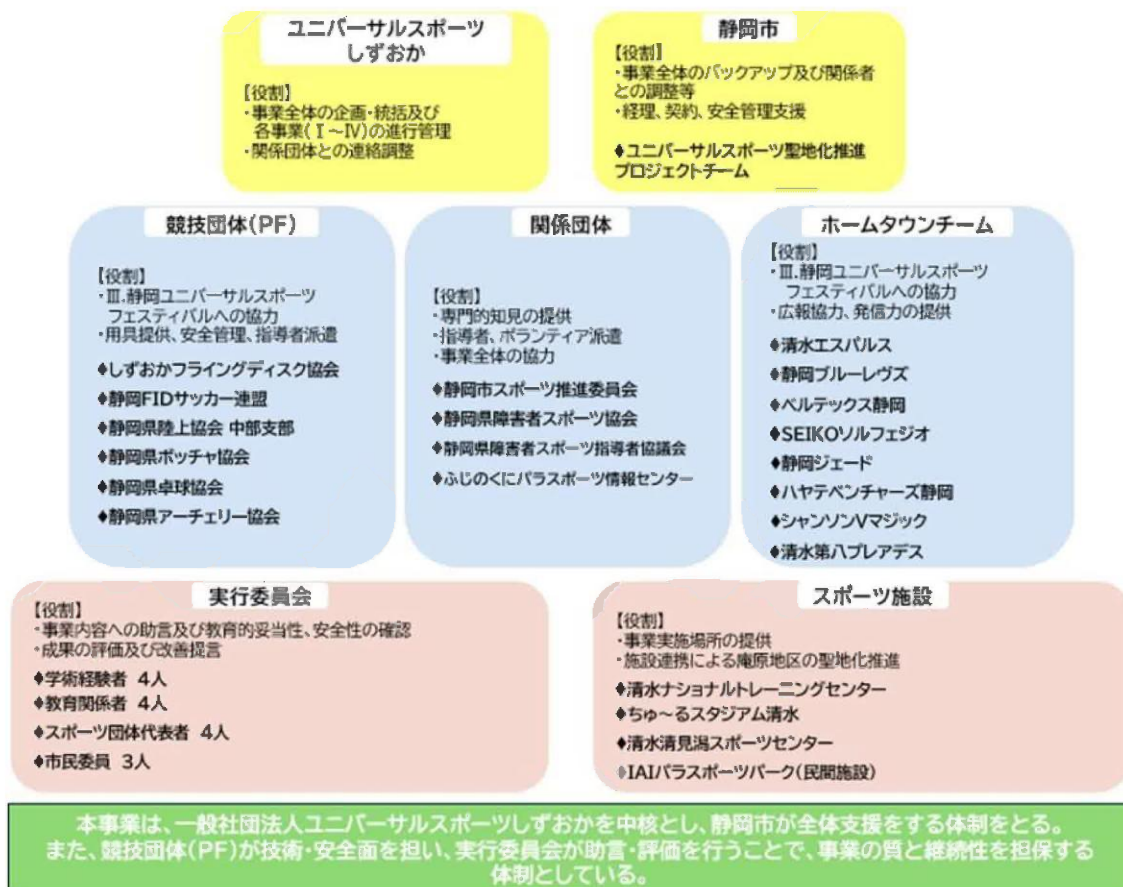
静岡市には、サッカー（清水エスパルス）、ラグビー（静岡ブルーレヴズ）、バスケットボール（ベルテックス静岡・シャンソンVマジック）、卓球（静岡ジェード）、女子ソフトボール（静岡甲）、女子サッカー（静岡ソルフェジオ）、野球（ハヤテベンチャーズ静岡）など計8つのホームタウンチームがあり、市民が多様な競技に触れる日常が根づいています。これらのチームと連携・協働を行うことにより、プロチームの持つ認知度・影響力を活用し、市内外問わず、パラスポーツに関するイベントや活動の周知を積極的に行います。



3. 事業内容

(1) 実施計画 別紙1のとおり

(2) 実施日程 別紙2のとおり



5. 連絡担当者

氏名	職名	連絡先 (TEL 番号、FAX 番号、メールアドレス)
(責任者) 大塚 康夫	事務局長	TEL : 080-5162-1954 E-Mail : dai0062yas@outlook.jp
(行政事務担当者) 静岡市スポーツ振興課 島田 倫之 齋藤 司	係長 主任主事	TEL : 054-221-1038 E-Mail : sports@city.shizuoka.lg.jp (課) shimada_cd@city.shizuoka.lg.jp (島田) saitou_cr@city.shizuoka.lg.jp (齋藤)

6. 委託事業経費予定額 ※別紙のとおり

経理については、静岡市スポーツ振興課が事務補助を行い、支出内容の確認、証憑書類管理、精算を適切に行うことで、透明性と適正性を確保する。

(別紙1)

実 施 計 画

事業内容		備考																									
1. 申請事業 該当するテーマに○をつけてください。 ※下の表のア～エから少なくとも一つ以上選択し、複数のテーマを選択する場合は、必ずその中で主たるテーマ一つに◎をつけてください。 <table><thead><tr><th colspan="2">モデル創出事業のテーマ</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>ア) 企業と競技団体によるパラスポーツ大会や特別支援学校等が参加する全国大会、インクルーシブなスポーツ大会の整備</td></tr><tr><td></td><td>イ) デジタル技術を活用したパラスポーツ実施環境の整備</td></tr><tr><td>○</td><td>ウ) オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備</td></tr><tr><td>◎</td><td>エ) 地域の課題に対応した障害のある方に対するスポーツの振興、実施環境の整備</td></tr></tbody></table> すべてのテーマにおける提案を、「法人格を有する団体であって競技団体以外の団体」が行う場合は、連携する競技団体名を記載すること。 2. 実行委員会及び実施体制 【実施体制（一般社団法人ユニバーサルスポーツしずおか）】 ◆組織概要：令和8年2月に発足。障がいのある人が自主的かつ積極的にスポーツ活動に取り組めるための普及、振興を図るとともに、障がいのある人もない人も共に楽しみ、誰もが主役になれるユニバーサルスポーツを通して、相互理解と多様性を尊重し合える共生社会の実現を目指すことを目的とする。 <table><thead><tr><th>氏名</th><th>役割</th><th>経歴</th></tr></thead><tbody><tr><td>北川 雅弘</td><td>理事長 全体の統括</td><td>・KITAGAWA(株)代表取締役 ・（一社）静岡県建設産業専門団体連合会会長 ・（一財）日本スポーツコミッション理事 ・静岡・モンゴル親善協会理事長 ○受賞歴 モンゴルオリンピック委員会最高勲章「アルタンオチル章」受賞（2022年）</td></tr><tr><td>大塚 康夫</td><td>理事 事務局</td><td>・NPO 法人しずおか障がい者フライングディスク協会理事長 ・上級パラスポーツ指導員 ・韓国、台湾、モンゴル、ベトナム、ネパールにおける障がい者フライングディスクの普及、指導 ○受賞歴 ・「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰（2025年） ・静岡県知事表彰（教育学術文化スポーツ）（2024年） ・静岡市功労者表彰（社会福祉）（2022年）</td></tr><tr><td>繁田 一紀</td><td>理事 事務局</td><td>・パラスポーツ選手 ・全国障害者スポーツ大会 アーチェリー競技 優勝</td></tr><tr><td>堀越 英宏</td><td>監事</td><td>・NPO 法人静岡市障害者協会副会長 ・静岡市障害支援区分認定等審査会委員</td></tr></tbody></table>		モデル創出事業のテーマ			ア) 企業と競技団体によるパラスポーツ大会や特別支援学校等が参加する全国大会、インクルーシブなスポーツ大会の整備		イ) デジタル技術を活用したパラスポーツ実施環境の整備	○	ウ) オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備	◎	エ) 地域の課題に対応した障害のある方に対するスポーツの振興、実施環境の整備	氏名	役割	経歴	北川 雅弘	理事長 全体の統括	・KITAGAWA(株)代表取締役 ・（一社）静岡県建設産業専門団体連合会会長 ・（一財）日本スポーツコミッション理事 ・静岡・モンゴル親善協会理事長 ○受賞歴 モンゴルオリンピック委員会最高勲章「アルタンオチル章」受賞（2022年）	大塚 康夫	理事 事務局	・NPO 法人しずおか障がい者フライングディスク協会理事長 ・上級パラスポーツ指導員 ・韓国、台湾、モンゴル、ベトナム、ネパールにおける障がい者フライングディスクの普及、指導 ○受賞歴 ・「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰（2025年） ・静岡県知事表彰（教育学術文化スポーツ）（2024年） ・静岡市功労者表彰（社会福祉）（2022年）	繁田 一紀	理事 事務局	・パラスポーツ選手 ・全国障害者スポーツ大会 アーチェリー競技 優勝	堀越 英宏	監事	・NPO 法人静岡市障害者協会副会長 ・静岡市障害支援区分認定等審査会委員	
モデル創出事業のテーマ																											
	ア) 企業と競技団体によるパラスポーツ大会や特別支援学校等が参加する全国大会、インクルーシブなスポーツ大会の整備																										
	イ) デジタル技術を活用したパラスポーツ実施環境の整備																										
○	ウ) オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備																										
◎	エ) 地域の課題に対応した障害のある方に対するスポーツの振興、実施環境の整備																										
氏名	役割	経歴																									
北川 雅弘	理事長 全体の統括	・KITAGAWA(株)代表取締役 ・（一社）静岡県建設産業専門団体連合会会長 ・（一財）日本スポーツコミッション理事 ・静岡・モンゴル親善協会理事長 ○受賞歴 モンゴルオリンピック委員会最高勲章「アルタンオチル章」受賞（2022年）																									
大塚 康夫	理事 事務局	・NPO 法人しずおか障がい者フライングディスク協会理事長 ・上級パラスポーツ指導員 ・韓国、台湾、モンゴル、ベトナム、ネパールにおける障がい者フライングディスクの普及、指導 ○受賞歴 ・「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰（2025年） ・静岡県知事表彰（教育学術文化スポーツ）（2024年） ・静岡市功労者表彰（社会福祉）（2022年）																									
繁田 一紀	理事 事務局	・パラスポーツ選手 ・全国障害者スポーツ大会 アーチェリー競技 優勝																									
堀越 英宏	監事	・NPO 法人静岡市障害者協会副会長 ・静岡市障害支援区分認定等審査会委員																									

【実行委員会】

◆ 目的：静岡市の附属機関である静岡市スポーツ推進審議会委員を実行委員会のメンバーにすることで、第2期静岡市スポーツ推進計画に基づいた総合的な観点から事業の助言ができる。事業終了後も本委員会を基盤として、静岡市のユニバーサルスポーツの推進に向けて継続的に活動をする。

◆ 時期：6月、11月、2月（年3回開催予定）

◆ 実行委員会メンバー及び役割は以下のとおり

氏名	所属	役割
大塚 康夫	ユニバーサルスポーツしずおか	事業推進
北川 雅弘		
坂口 裕昭	静岡市スポーツ政策監	事業推進サポート (事業進捗、経理等)
三矢 次郎	静岡市スポーツ振興課	
島田 倫之		
齋藤 司		
木宮 敬信	常葉大学教育学部 教授	静岡市スポーツ推進審議会委員 と兼任。 専門的知見からの助言や評価及 び提言を行う。
祝原 豊	静岡大学グローバル共創科学部 教授	
田村 元延	常葉大学短期大学部保育科 准教授	
鈴木 健司	静岡市静岡医師会	
山城 史人	静岡市中学校体育連盟 会長	
加藤 綾子	小学校体育指導者	
伊藤 省吾	静岡県立清水特別支援学校 教諭	
大島 友佳里	静岡市立高等学校 養護教諭	
高津 健一	公益財団法人静岡市スポーツ協会	
内川 久雄	総合型地域スポーツクラブ 代表	
笹本 とよ子	スポーツ推進委員	
深澤 陽介	株式会社エスパルス 事業本部	
牧田 裕介	市民委員	
天野 温紀	市民委員	
森 菜月	市民委員	

【連携団体】

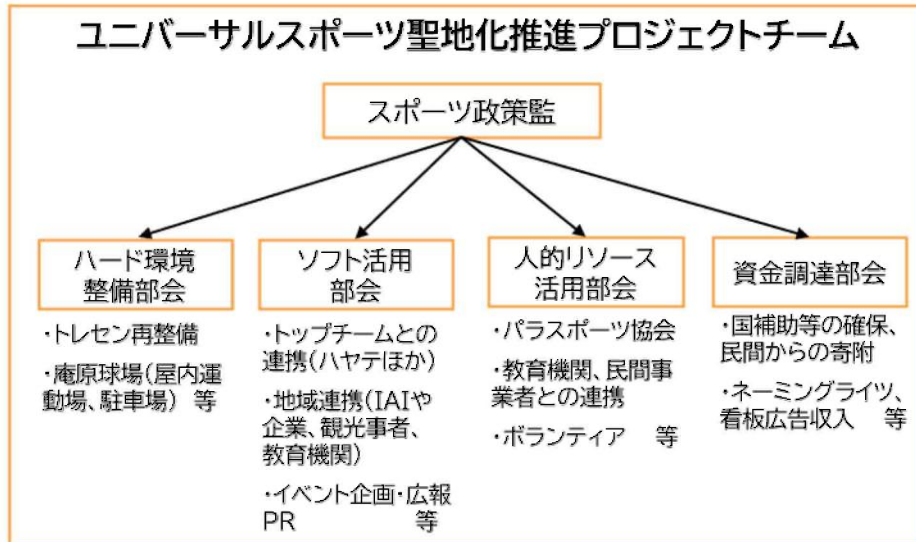
これまで団体ごとに活動をしていたが、本事業を通し、ネットワークを構築する。

所属	役割	参画事業
静岡市スポーツ振興課	事業推進サポート	I . II . III . IV
しずおか障がい者フライングディスク協会	事業推進連携	I . II . III . IV
静岡 FID サッカー連盟	人員手配、用具貸出、安全管理等	III
静岡パラ陸上競技協会		III
静岡県ボッチャ協会		III
静岡県障がい者卓球協会		III
静岡県障がい者アーチェリー協会		III
静岡市スポーツ推進委員連絡協議会	人員手配、地域への拡散	III
静岡県障害者スポーツ協会	事業全体の連携	II . III
静岡県障害者スポーツ指導者協議会	人員手配	II . III . IV
ふじのくにパラスポーツ情報センター	情報収集・発信	II . III
市内ホームタウンチーム	出演協力、集客広報	II . III

【静岡市のユニバーサルスポーツ推進体制】

静岡市では、ユニバーサルスポーツの聖地化を目指すため、課を横断したプロジェクトチームを組織。(22課26人)。

本事業推進にあたっては、ユニバーサルスポーツしずおかを中心に、「ソフト活用部会」「人的リソース活用部会」「資金調達部会」と連携をしながら、静岡市全体を巻き込んで事業を推進していく。



【U-SPORT PROJECT (スポーツ庁) が行う取組との関わり】

本事業は、スポーツ庁が展開するU-SPORT PROJECTにおける「地域発の先進的な取組を全国に広げていく」という考え方を具体化するモデル事業として位置づけている。

清水区庵原地区では、既存のスポーツ施設集積を活かしながら、教育、文化、イベント、継続的な運動機会を組み合わせたユニバーサルスポーツの実践モデルを構築する。

本事業の成果や課題を整理し、再現性のある形で可視化することで、コンソーシアム自治体等への展開や、U-SPORT PROJECT 全体に寄与することを目指す。

3. 具体的な事業実施内容

◆I：共生社会教育プログラムの実施

【現状・課題】

現在、学校教育において共生社会や多様性に関する学びは進みつつあるものの、座学中心となり、児童が実感を伴って理解する機会は十分とは言えない。

また、障がいのある人と日常的に関わる機会が少ないことから、無意識のうちに心理的な壁が形成されやすいという課題がある。

さらに、ユニバーサルスポーツを活用した体験型学習は、専門性や用具、安全管理の観点から、学校単独での継続的实施が難しいのが現状である。

これらの課題を踏まえ、学校・行政・専門団体が連携し、体験を通じて共生社会への理解を深める教育プログラムの実施が求められている。

【実施概要・目的】

本プログラムでは、授業（座学）とユニバーサルスポーツ体験を一体的に実施し、知識としての理解を身体経験を通じた納得感へとつなげる。小学校4年生の「総合的な学習の時間」を中心に、体育科や道徳科とも関連付けた教科横断的な学びとすることで、学校現場にとって実施しやすい内容とする。

また、専門団体と連携することで、安全かつ質の高い指導体制を構築するとともに、ワークシートや家庭共有プリントを通じて、学びを家庭・地域へと波及させる。

これにより、児童一人ひとりの意識変容にとどまらず、共生社会を支える地域づくりにつなげる。

【取組内容】

項目	内容
実施時期	6-7月：パイロット校で実施・授業改善 9-12月：本展開
主な内容	<授業（45-50分）> 共生社会・合理的配慮・コミュニケーション等の学び <体験（45-60分）> ボッチャ、フライングディスク等のユニバーサル種目 <ふりかえり> ワークシート+家庭共有プリント
対象者	小学校4年生
実施回数	5校×各2コマ
その他	・小学校4年生の総合学習の時間を活用する。 ・まずは清水区から初め、市内全域に展開する。

【評価指標】

項目	目標値
延べ参加者数	250人以上
家庭内での共有の実施	100%
事後アンケート「共生社会への理解が深まった」割合	80%以上

【ポイント】

・実行委員会内の「小学校体育指導者」及び「特別支援学校 教諭」と連携し、プログラム構築を実施。学校の負担を減らし、かつ効果的なプログラムとする。

・静岡市では、これまで（一社）日本パラバトミントン連盟と連携し、小学校4年生向けの授業を実施していたため、このノウハウを参考に組み立てを行う。

◆Ⅱ：大学や地元アーティストと連携したイベントの開催

【現状・課題】

ユニバーサルスポーツや共生社会に関する取組は、行政主導になりがちで、若者層にとっては自分事として捉えにくいという課題がある。さらに、共生社会やパラスポーツの理念を「分かりやすく」「魅力的に」伝える表現手法については、専門的知見や多様な視点を十分に取り入れられていないのが現状である。

こうしたことから、次世代を担う若者が、企画・制作の段階から当事者として関わり、共生社会の価値を自らの表現として発信できる仕組みづくりが求められている。

【実施概要・目的】

本事業では、美術・福祉系大学や地元アーティストと共創し、ユニバーサルスポーツや共生社会をテーマとした制作コンテスト、ワークショップ、表彰・展示を一体的に実施する。

単なる作品募集にとどまらず、障がい当事者やアスリートとの対話、パラスポーツの体験・視察を組み合わせることで、参加者が共生社会を「考える側」「つくる側」として関わる機会を創出する。

【取組内容】

項目	内容
実施時期	6月：テーマ設定・募集開始 7-9月：制作ワークショップ（3回）・応募受付 10月：審査・フィードバック 11月：表彰式・成果展示（市庁舎/駅/商業施設 等） 12-2月：受賞作品の実装（広報物・会場サイン・記念品）
主な内容	・クリエイティブ制作コンテスト（ロゴ/お礼品/事業アイデア） ・当事者、アスリートを交えたワークショップ（応募者は参加必須） ・表彰式、トークイベント／市内各所での掲出・上映 ・受賞作の実装・二次利用（市公式・事業広報への採用）
対象者	市内在学の大学生・専門学生、一般クリエイター、市民（観覧・投票）、実行委員（審査）
実施回数	表彰・展示イベント 1回

【評価指標】

項目	目標値
コンテスト応募点数	5点以上
ワークショップ・大会見学 参加者数	50名以上
事後アンケート「共生社会への理解が深まった」割合	80%以上

【ポイント】

- ・表彰式はⅢ. 静岡ユニバーサルスポーツフェスと合同開催を検討
- ・若者やクリエイターが地域課題に関わる入口として位置づけ、将来的なボランティア参加、イベント参画、職業的関与へとつなげる。
- ・受賞作品を実際の広報物や会場サイン等に採用することで、事業終了後も成果が地域に残る構造とする。
- ・成果物・運営手順をガイド化し、U-SPORT PROJECT 経由で横展開する。
- ・ホームタウンチームの選手やスタッフをワークショップや審査に参画させ、プロスポーツの発信力を活用する。
- ・企業と連携し、社員投票や社内展示を実施することで、企業内の人材育成やDEI推進の機会としても活用する。

◆Ⅲ：静岡ユニバーサルスポーツフェスティバルの開催

【現状・課題】

パラスポーツやユニバーサルスポーツに関するイベントは各地で開催されているものの、多くの場合、対象が限定的であったり、「障がいのある人のためのイベント」として受け取られやすい傾向がある。

その結果、障がいのない市民にとっては参加のハードルが高く、共生社会を“体感”する機会が一部の層にとどまっているという課題がある。

【実施概要・目的】

本事業では、「静岡ユニバーサルスポーツフェスティバル」を開催し、障がいの有無を問わず、誰もが気軽にスポーツに参加・交流できる機会を創出する。

競技体験、デモンストレーション、交流、ボランティア体験、関連ブースを横断的に配置することで、ユニバーサルスポーツを「知る」「体験する」「関わる」きっかけとして機能させる。

また、メインイベントに加え、民間団体と連携したサテライト開催を行うことで、単発に終わらない継続的な接点を生み出し、次のスポーツ教室や地域活動への参加につなげることを目的とする。

【取組内容】

項目	内容
実施時期	11月：イベント 7月、2月：サテライト
主な内容	＜体験＞ ボッチャ、車いすバスケット、シッティングバレー、フライングディスク 等 ＜デモ&交流＞ アスリート・ホームタウンチーム出演、トークセッション ＜ボランティア育成＞ 受付・伴走・車いす介助 等の実地研修 ＜地産飲食・関連ブース＞ 健康・福祉・企業CSRで回遊性を創出
対象者	市民誰でも
実施回数	メイン1回、サテライト2回（企業フェス等、民間団体との連携）

【評価指標】

項目	目標値
延べ参加者数	500人以上
ユニバーサルスポーツを始めて体験した人の割合	40%以上
事後アンケート「また参加したい」割合	80%以上
事後アンケート「共生社会への理解が深まった」割合	80%以上

【ポイント】

・障がいの有無を問わない市民参加型フェスとして、運営方法や会場設計を標準化する。

・ボランティア育成、体験導線、サテライト開催の手法を整理し、他自治体でも実施可能なイベント運営モデルとして展開する。

・民間企業やプロスポーツ団体と連携することで、持続可能かつ様々な団体と連携したイベント運営につなげる。

・受付対応、誘導、伴走、車いす利用者の補助等を通じて、障がい特性に応じた適切なコミュニケーション、合理的配慮の具体的な実践方法、安全管理・リスク対応のスキルを習得し、日常生活や他の地域活動においても活かせる「共生社会の担い手」の裾野拡大を図る。

◆IV：スポーツ教室開催事業

【現状・課題】

イベントや体験会を通じてユニバーサルスポーツに触れる機会は増えているものの、その多くが単発にとどまり、日常的な運動習慣の定着には至っていない。

特に、障がいのある方にとっては、「安心して参加できる場」「自分のペースで継続できる環境」が限られており、スポーツ参加の継続が難しい状況がある。

このため、継続的な運動・交流の機会へとつなげる仕組みづくりが求められている。

【実施概要・目的】

本事業では、北部体育館の空間を活用し、ユニバーサルスポーツを主体としたスポーツ教室を定期的に開催する。

初心者や運動に不安のある方でも安心して参加できる内容とし、イベント参加者や地域住民が継続的にスポーツに親しむ場を提供する。

これにより、運動習慣の定着、健康増進、参加者同士の交流を促進し、ユニバーサルスポーツが地域の日常に根づくモデルの構築を目指す。

【取組内容】

項目	内容
実施時期	5-7月：前期（月1回） 8-10月：中期（月1回） 11-1月：後期（月1回）
主な内容	初心者向けユニバーサル種目 （ボッチャ／フライングディスク／軽運動）
対象者	主に障がい者
実施回数	3期×各3回＝9回
目標人数	延べ参加者数 200人
その他	・パラスポーツ指導員の活用 ・学生（高校生、大学生）ボランティアの活用

【評価指標】

項目	目標値
延べ参加者数	200人以上
継続参加率	50%以上
事後アンケート「運動への意欲が高まった」割合	80%以上
事後アンケート「共生社会への理解が深まった」割合	80%以上

【ポイント】

・教室運営の頻度、内容、指導体制を整理し、他施設でも実施可能な定期教室モデルとして構築する。

・指導員・学生ボランティアの育成を通じ、地域内で人材が循環する仕組みを形成する。

・将来的には、企業や福祉施設等との連携により、国費に依存しない自律的な運営への展開を目指す。

4. 目標

本事業により、ユニバーサルスポーツへの「認知・参加・継続」を一体的に促進し、令和8年度は延べ1,000人以上の参画を創出する。

参加者の80%以上が「共生社会への理解が深まった」と回答し、共生社会への実現を目指す。

5. 評価指標（全事業共通）

項目	目標値
延べ参加者数	1,000人以上
事後アンケート「共生社会への理解が深まった」割合	80%以上

6. 事業の新規性及びモデル性、既存事業・体制と本事業との関係

【事業の新規性・モデル性】

本事業の新規性は、ユニバーサルスポーツを単発の体験機会として提供するのではなく、「学ぶ（教育）・創る（共創）・集う（フェス）・続ける（教室）」という段階的な参加導線を構築している点にある。

従来のパラスポーツ関連事業は、特定の対象者やイベント単位で完結するケースが多く、参加後の行動変容や継続的な関与につなぐににくいという課題があった。

本事業では、学校教育、大学・アーティスト、市民参加型イベント、定期教室を連動させることで、認知から参加、継続、担い手育成へとつながるプロセスを一体的に設計している。

また、各取組で得られた運営ノウハウや成果を授業パッケージ、イベント運営手引き、評価指標等として可視化・整理し、他自治体でも活用可能な再現性の高いモデルとして展開する点において、モデル創出事業としての意義を有している。

【既存事業・体制と本事業との関係】

ユニバーサルスポーツしずおかは、静岡市がこれまで進めてきた、国際・全国大会や日本代表合宿等のパラスポーツイベントの誘致、日本パラバドミントン連盟との「パラバドミントンサポートシティに係る覚書」の締結など、パラスポーツの普及に向けた取組を重要な基盤と位置付けています。

また、「全国障害者スポーツ大会選手派遣」「わかふじスポーツ大会（静岡県障害者スポーツ大会）への参加促進」「心のバリアフリーイベント」等の市民参加型事業を通じて積み重ねられてきた、障がいに対する理解促進や人的ネットワークは大きな財産となっています。

令和7年度から始動した「清水区庵原地区ユニバーサルスポーツの聖地化推進プロジェクト」においては、スポーツ施設の整備・改修といったハード面の取組と、各種パラスポーツイベント等のソフト面の取組が一体的に進められており、ユニバーサルスポーツを地域に根づかせるための環境が着実に整いつつあります。

事業において、ユニバーサルスポーツしずおかは、これら既存の取組や体制を土台としながら、施設やイベントを単発の「点」で終わらせるのではなく、人・活動・地域を有機的に結び付け、「面」として機能させるためのソフト事業を担います。

さらに、実行委員会には、静岡市スポーツ推進審議会委員、競技団体、教育関係者等が参画しており、本事業を通じて構築される連携体制は、事業終了後も引き続き、静岡市におけるパラスポーツ・ユニバーサルスポーツ推進の基盤として継続的に活用されることを想定しています。

【多くの人に活用されるような情報発信の方法】

本事業では、単なる事業周知にとどまらず、「関心を持つ」「参加する」「次につながる」情報発信を重視する。

具体的には、以下の３段階で発信を行う。

（１）認知拡大

市公式媒体、学校配布物、ホームタウンチームの発信力を活用し、ユニバーサルスポーツや事業の存在を広く周知する。

（２）参加促進

フェスやイベントの開催時には、体験内容や参加方法を分かりやすく伝え、初参加者が心理的ハードルなく参加できる情報提供を行う。

（３）継続・波及

受賞作品や成果物を実際の広報物や会場サインとして活用するとともに、事業の様子や参加者の声を発信し、次の教室やイベントへの参加につなげる。

本事業の推進にあたっては、しずおか障がい者フライングディスク協会や静岡 FID サッカー連盟、静岡パラ陸上協会等の競技団体、総合型地域スポーツクラブ、静岡県障害者スポーツ協会やふじのくにパラスポーツ情報センター等の障がい者関係団体、スポーツ推進委員、清水エスパルス等市内ホームチームの等の関係団体に対し、実行委員会や連絡会等を通じて開催情報を事前に共有する。これにより、各団体が有する既存のネットワークを活用した構成員・利用者への周知を促進するとともに、当日の参加誘導や運営協力、事業後の継続的な取組への連携を図る。

７．取組を持続的かつ自律的に継続していくための課題及び取組方針**【課題①】**

- ・多くのパラスポーツ協会は自治体からの補助金で成り立っており、当団体も運営資金集めが難しい。

【取組方針①】

- ・静岡市は「清水庵原地区のユニバーサルスポーツの聖地化」というまちづくり施策のなかで、パラスポーツの推進を進めているため、ユニバーサルスポーツしずおかと静岡市が両輪となって、地元企業からの寄附金や企業版ふるさと納税を集めることで、国庫及び行政からの補助金に頼らない自立運営を確立する。

【課題②】

- ・静岡市内を主な活動地域とするパラ競技団体は少なく（多くのパラスポーツ団体は県単位で活動している）スポーツ団体以外との連携も必要。

【取組方針②】

- ・学校や障がい者施設等とのネットワークを形成し、普段スポーツをしていない方（潜在的な人）の掘り起こしを行っていく。

※ 審査基準「Ⅳ 評価項目」の「２．事業内容に関する評価」の（１）～（１０）の評価のために必要な事項も記載してください。

※ ６．委託事業経費予算額との整合性に留意し、積算について（人数、回数等）は、可能な限り詳細に記載してください。

3-1-3 ユニバーサルスポーツの聖地化

だれもが、いつでも、どこでも楽しめる「ユニバーサルスポーツの聖地“しずおか”へ！」

＜目標＞計画期間：～2031年3月31日

「全国からパラスポーツを楽しむ人が集まるまち」を目指します！！

- 清水区南原地区内の各スポーツ施設を誰もが安心して利用できる施設に改修（ハード）。
- バススポーツを支援する人材や団体を統括する組織化を支援し、誰もがスポーツを楽しむ環境を整備（ソフト）。
- 市民や民間事業者との共創により、スポーツが持つ力で社会的価値と経済的価値を結び好循環を生み出す。

【庵原地区内のスポーツ施設利用者数：20,000人→36,000人、日本バスボール協会公認指導者登録者数：54人→108人】

<PRポイント>

●静岡市はスポーツに最適な環境！

争岡市には、清水エスパルス(J1)やベルテックス静岡(B2)をはじめとする複数のプロスポーツチームがあり、

その中でも清水区庵原地区には、プロ野球球団の本拠地である「ちゅうるスタジアム清水」をはじめ、

宿泊施設を備えたナショナルトレーニングセンター、パワースポットなど、多彩な施設が集積！

●地区全体でプラススポーツ対応施設を整備！

同地区の「交通アクセス」「既存施設」といった強みを活かし、各施設を面的に整備することで、

全国初となる“ユニバーサルスポーツ推進エリア”としてまちづくりを推進！

＜現状・課題・総合的な取組体制＞

■ バラスポーツに取り組める施設が不足している

市民のバススポーツに対する関心不足

■ハラスポーツ統括団体の不在

エリア内の施設整備

組織化之指導員增加

イベントや大会の開催・誘致

静岡市を
ユニバーサルスポーツの聖地に！

スポーツと産業、健康、福祉、観光、教育を融合させた地域活性化と共生社会の実現に繋げる。

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞



<セルフチエックシート>



現在——將來

実 施 日 程 表 (予 定)

実施時期	計画事項				備 考
	I：共生社会教育プログラムの実施	II：大学や地元アーティストと連携したイベントの開催	III：静岡ユニバーサルスポーツフェスティバルの開催	IV：スポーツ教室開催事業	
4月	授業設計、学校との打合せ	テーマ設定、募集開始			
5月				スポーツ教室（前期）	
6月	パイロット校で実施				
7月					
8月	展開	募集期間 （ワークショップ開催）		スポーツ教室（中期）	
9月			サテライト開催		
10月		審査			
11月		表彰式、成果展示	フェス開催	スポーツ教室（後期）	第2回 実行委員会
12月		受賞作品の実装			
1月					
2月			サテライト開催		第3回 実行委員会
3月					

※ 計画事項は、実施計画（別紙1）の記載内容との整合性に留意し記載してください。